

A. アフリカ連合(AU : African Union)

A1. AUについて

- ・1963年に設立されたアフリカ統一機構(OAU)を発展改組し、2002年にAUが発足。
- ・アフリカ55の国/地域が加盟する世界最大級の地域機関(本部:エチオピア首都アディスアベバ)。
- ・アフリカの一層高度な政治的・経済的統合の実現と紛争の予防・解決に向けた取組を強化するのが狙い。
- ・AU総会が最高意思決定機関。総会は毎年2月にエチオピア(アディスアベバ)で開催。毎年夏にはアフリカ大陸の該当国で中間調整会合が開催。



Pic 1: AU本部

A2. AUの体制

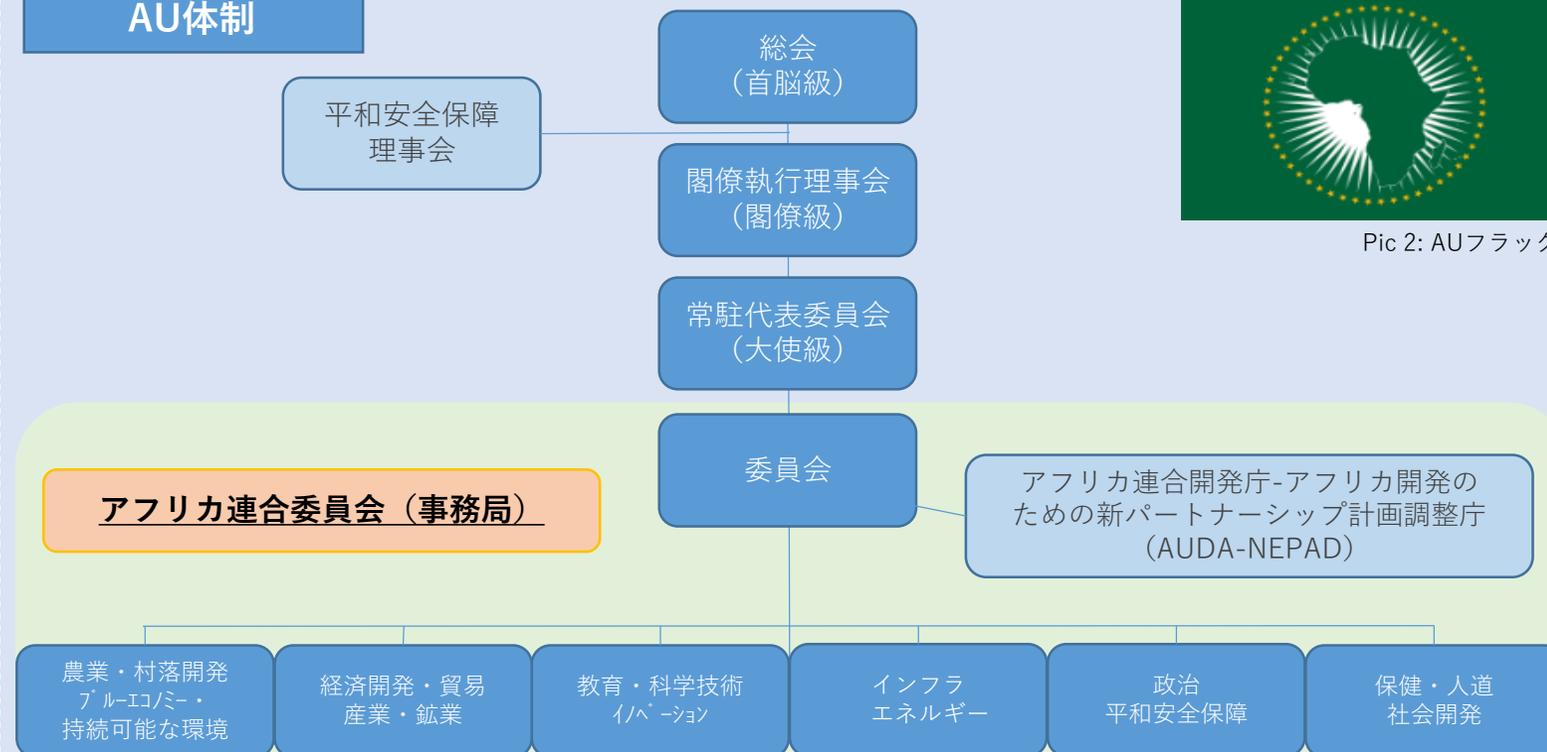
AU総会幹事国(2022年)

AU議長	セネガル (西部)
第1副議長	空席 (東部)
第2副議長	リビア (北部)
第3副議長	アンゴラ (南部)
ラポルトゥール	コンゴ (民) (中部)

Table 1: AU総会幹事国

- ・アフリカ5地域から輪番選出された国が1年任期を務める。
- ・第1副議長国は、翌年のAU議長国に就任する傾向。
- ・前議長国は、ラポルトゥール(報告者)に就任。
- ・第2、第3副議長国は、それぞれの地域から選出。

AU体制



Pic 2: AUフラッグ

Fig.1: AU体制

B. アフリカ連合委員会(AUC : African Union Commission)

B1. AUCについて

- ・ AUの事務局として、AUを対外的に代表し、政策・法案の提案・決定事項を執行する。
- ・ 現在のAU委員長(第4代)はムーサ・ファキ・マハマト前チャド首相・外相(2017年3月就任(現在2期目)・任期4年)。

B2. AUC組織図 *地域及びジェンダーのバランスを保持

役職	名前	性別	国籍	地域	備考
委員長	ムーサ・ファキ・マハマト (2期目) 	男性	チャド	中部	元チャド首相・外相
副委員長	モニック・ンサンザバガンワ 	女性	ルワンダ	東部	元ルワンダ国立銀行副総裁
政治・平和安全保障	バンコレ・アデオエ 	男性	ナイジェリア	西部	元駐エチオピア・ナイジェリア大使
インフラ・エネルギー	アマニ・アブゼイド (2期目) 	女性	エジプト	北部	元アフリカ天然資源センター長 (AfDB下部組織)
経済開発・貿易 産業・鉱物	アルバート・M・ムチャンガ (2期目) 	男性	ザンビア	南部	元ザンビア首相府事務次官
農業・村落開発 ブルーエコノミー持続可能な環境	ジョセファ・サッコ (2期目) 	女性	アンゴラ	南部	元汎アフリカ女性機構(PAWO) 副会長特別顧問
保健・人道問題・社会開発	セスマ・ミナタ・サマテ 	女性	ブルキナファソ	西部	元ブルキナファソ大統領外交顧問 前AU政治委員
教育・科学技術 イノベーション	ムハメド・ベルホシン 	男性	アルジェリア	北部	元WHOギニア事務所代表

C. AU取り組み・活動内容

C1. Agenda2063

- ・ AUの前身であるアフリカ統一機構(OAU)の設立(1963年)から半世紀が経った2013年のAU総会で、以降50年間のアフリカの統合を見据えて策定された長期目標。
- ・ 多数の目標の中で、主たるテーマについて7つの願望を提示し、代表的な15の計画を旗艦プロジェクトと定めている。
- ・ 持続可能な開発目標(SDGs)と並んでアフリカの開発に資するものとして国際パートナーも支援。



Pic 3: AU総会

「7つの願望 (Aspirations)」

1. 包摂的な成長、持続可能な開発に基づき繁栄するアフリカ
2. 政治的に統一された汎アフリカ主義やアフリカルネッサンスのビジョンに基づき統合されたアフリカ
3. 良い統治、民主主義、人権尊重、正義、法の支配によるアフリカ
4. 平和で安全なアフリカ
5. 力強い文化的アイデンティティ、共通の遺産、価値観や倫理の共有を伴うアフリカ
6. 人々主導の、特に女性や若者といったアフリカの人々の潜在能力に依拠し、子供達をケアする開発を伴うアフリカ
7. 力強く、統合され、強靱であり、また、国際社会において影響力のある主体でありパートナーであるアフリカ



「15の旗艦プロジェクト」

1. 統合された高速鉄道ネットワーク
2. アフリカ・コモディティー戦略の策定
3. アフリカ大陸自由貿易圏の設立
4. アフリカ旅券と人の自由な移動
5. 2020年までの紛争停止
6. インガダム・プロジェクトの実施
7. アフリカ単一航空市場の設立
8. 年次アフリカ経済フォーラムの設立
9. アフリカ金融機関の設立
10. 汎アフリカEネットワーク
11. アフリカ宇宙空間戦略
12. アフリカバーチャル大学、アフリカE大学
13. サイバーセキュリティー
14. アフリカ大博物館
15. アフリカ百科事典

C2. AU年間テーマ(2022年)

- ・ 「栄養と食料安全保障(※2021年は芸術・文化・遺産)」
- ・ 1年毎にAUが力を入れて取り組むためのテーマを決定する。
- ・ 毎年2月のAU総会でその年のテーマを決定。



C. AU取り組み・活動内容

C3. 分野別の取り組み活動

政治・平和安全保障

平和支援活動 / 仲介・調停活動

- ・ AUソマリア移行ミッション (ATMIS)
- ・ チャド湖流域における合同多国籍軍
- ・ G5サヘル合同軍
- ・ マリ及びサヘル地域のためのAUミッション(MISAHEL)
- ・ SADCモザンビーク・ミッション(SAMIM)
- ・ ポコ・ハラム掃討多国籍軍(MNJTF)

各種国際場裡の課題に関する統一的立場の形成

- ・ ウクライナ情勢に関するAU議長及びAUC委員長共同声明
- ・ 国際選挙へのアフリカからの立候補等についての統一ポジションを形成

紛争の予防・解決のためのメカニズム及び規範形成

- ・ アフリカ平和安全保障アーキテクチャー(APSA)
- ・ アフリカ・ピア・レビュー・メカニズム(APRM)、
- ・ アフリカ・ガバナンス・アーキテクチャー(AGA)
- ・ 賢人パネル
- ・ アフリカの非憲法的政権交代に関する宣言(アクラ宣言)
- ・ 青年、平和及び安全保障に関する宣言(ブジュンブラ宣言)



Pic 4: テロに関する臨時サミットでのAUC委員長スピーチ



Pic 5: 2015年AUソマリア・ミッション(AMISOM)の様子

経済・社会

*1. AUDA-NEPAD=アフリカ連合開発庁-アフリカ開発のための新パートナーシップ計画調整庁)

- ・ 開発分野における各種イニシアティブの発表。
- ・ AUDA-NEPADアフリカ戦略計画2014-2017、アフリカ戦略計画2020-2023
- ・ アフリカ・インフラ開発プログラム(PIDA)。
- ・ 汎アフリカ大学(PAU)構想。
- ・ ワクチン自前生産のための、アフリカCDCを通じた協力。
- ・ アフリカ大陸自由貿易圏(AfCFTA)下での自由貿易の促進。
(更に、関税同盟、単一市場、中央銀行、共通通貨(アフリカ通貨同盟参照)を創設することが今後の目標)



Pic 6: AfCFTAロゴ



Pic 7: アフリカCDCコロナワクチン接種

C. AU取り組み・活動内容

C3. AU公式パートナーシップ

 **アフリカ連合日本政府代表部**
Mission of Japan to the African Union

枠組	開始	頻度	場所	参加レベル	前回	予定
アラブ連盟	1977年 カイロ	3年毎	アラブ諸国- アフリカ交互	首脳級	2016年11月 赤道ギニア	第5回2023年? サジ アビア
日本 (TICAD)	1993年 東京	3年毎 (第5回迄は 5年毎)	日本- アフリカ交互 (第6回から)	首脳級	2019年8月 横浜	第8回2022年8月 チュニジア
EU	2000年 カイロ	不定期	欧州- アフリカ交互	首脳級	2022年2月 ブリュッセル	第7回未定
中国 (FOCAC)	2000年 北京	3年毎	中国- アフリカ交互	首脳級 閣僚級	2021年11月 セネガル(閣僚級)	第9回2024年未定
韓国	2006年 ソウル	3年毎	(原則) 韓国	閣僚級	2022年3月 韓国	第6回未定
南米 (ASACOF)	2006年 アブジャ	3年毎	南米- アフリカ交互	首脳級	2016年5月 ワシントン(休止)	第4回未定
インド	2008年 ニューデリー	3年毎	インド- アフリカ交互	首脳級	2015年10月 ニューデリー	第4回2022年 未定
トルコ	2008年 イスタンブール	3年毎	トルコ- アフリカ交互	首脳級	2021年12月 イスタンブール	第4回2026 年未定

D. 日本との関係

D1. アフリカ連合に対する日本の取り組み内容



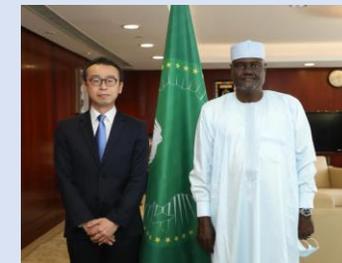
Pic 8: TICAD8のロゴ

- ・2005年6月、我が国はAUに対する初代の常駐代表を任命(駐エチオピア大使が兼任)。2018年1月にはアフリカ連合日本政府代表部を開設。以後、駐エチオピア大使とは別に、AU常駐代表(大使)を任命。
- ・アフリカ開発会議(TICAD)プロセスを基軸とするアフリカ開発政策を推進。
- ・2022年8月、第8回アフリカ開発会議(TICAD8)のチュニジア・チュニスでの開催。

D2. 具体的活動

対AU支援

- ・社会・経済及び政治分野における女性のエンパワーメント支援。
- ・アフリカ疾病管理予防センター(CDC)設立支援。
- ・国際保健規則履行のための能力構築と保健システムの強化支援。
- ・緊急時の感染症対策に備えた準備及び対応を目的として地域ネットワーク強化支援。
- ・新型コロナウイルス対策に取り組むアフリカ疾病管理予防センター(CDC)支援。
- ・アフリカにおける気候耐性、品質、微量栄養素を含む食品作物の増産、市場アクセス及び消費の増加に向けた能力強化支援。



Pic 9: AUC委員長との写真

TICAD開催

- ・TICAD共催者としてのアフリカ連合委員会(AUC)：2011年のTICAD閣僚級フォローアップ会合よりTICAD共催者の一員として名を連ねる。

TICADの外交的意義

1. 日本外交の基盤強化

- ・外交上の諸課題(安保理改革、地球規模課題、国際機関選挙等)に取り組むにあたり、アフリカ各国からの指示・協力は不可欠。

3. 国際社会における責務と信頼獲得

- ・課題が集中するアフリカの問題に対処することは、国際社会の主要なメンバーである我が国の責務。
- ・国際社会からの信頼を獲得する上でも重要。

2. 資源確保と市場開拓

- ・豊富な資源/急激な経済成長を遂げるアフリカは我が国の民間企業も高い関心。
- ・世界経済にとって新たな成長源としての潜在性。

4. 国際社会における発言力強化

- ・国際社会の主要な開発議論をリード。

D. 日本との関係

D3. 沿革・近年の要人往来

沿革

- ・ 2004年 : 町村外相(当時)・コナレ委員長(当時)の会談で、日・AU関係の強化に合意。
- ・ 2005年以降 : 我が国はAU常駐代表を任命(駐エチオピア大使が兼任)。
- ・ 2010年 : ピン委員長(当時)訪日時、「日AU協力強化に関する共同コミュニケ」を発出。AUCがアフリカ開発会議(TICAD)共催者となる。
- ・ 2011年 : 松本外務副大臣(当時)及びピン委員長(当時)の間で日・AUハイレベル政策協議を実施。
- ・ 2013年 : 第5回アフリカ開発会議(TICAD V)開催(於横浜)。AUCが共催者として初めて参加。
- ・ 2016年 : 第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)開催(於ケニア)。
- ・ 2018年 : アフリカ連合日本政府代表部開設。
- ・ 2019年 : 第7回アフリカ開発会議(TICAD7)開催(於横浜)。
- ・ 2022年8月 : 第8回アフリカ開発会議(TICAD8)のチュニジア・チュニスでの開催。

近年の要人往来

- ・ ピン委員長(当時)訪日(2008年、2010年)。
- ・ ドラミニ・ズマ委員長(当時)訪日(2013年、TICAD V 共催者として参加。安倍総理(当時)、岸田外相(当時)と会談)。同委員長は、TICAD VI(2016年)にも共催者として参加。
- ・ 河野外相(当時)がエチオピアを訪問(2017年、クオティ副委員長ほかと会談)。
- ・ クオティ副委員長訪日(2018年、河野外相(当時)と会談)。
- ・ ファキ委員長訪日(2019年、TICAD7共催者として参加。安倍総理(当時)と会談)。